

事業部



常務理事
黒田 美喜子

令和2年度の振り返り

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、各種研修や両親学級、看護フェスタ等の開催方法をオンライン開催にするなど、事業実施体制を大幅に変更しました。

実施にあたっては、協会内及び関係機関と十分な協議を重ね、オンデマンド講義やWeb会議システムを活用し、各事業のオンライン開催を実現しました。当初、オンライン開催はハードルが高いと感じていましたが、実施してみると「移動時間も無く参加しやすかった」等の意見が多く寄せられ、回を重ねるごとにトラブル対応も減少しました。円滑な運営と研修の質の担保に配慮しながら取り組むことで、事務局のITリテラシー向上につながり、今後の事業展開にも好影響を与えていると考えています。

次年度も各事業の開催については、感染状況に応じてオンラインと集合研修を併用しながらニーズに合った内容を検討し実施していきます。

訪問看護ステーション事業は、独居の方の在宅看取り、土日や遅い時間の対応、エリア拡大などを行い、ニーズに応えることができました。また、訪問看護事業でリハビリの強化もあり、訪問件数が増加しました。教育ステーションは、新型コロナウイルス感染症の影響で受講者数増加はできませんでしたが、研修生の満足度は高いものとなりました。次年度も、各ステーションの地域特性に合わせた質の高いケアの提供と教育ステーション事業を確実に遂行していきます。

事業概要

- 地域住民の健康支援
- 地域包括ケアシステム構築の推進
- 次世代育成事業
- 訪問看護・居宅介護支援事業



※常務理事の黒田は令和3年6月退任



主な取り組み

- 両親学級
- すくすく広場
- 出前事業
- 都民健康講座
- 看護フェスタ
- 感染症予防対策事業
- 高齢者・福祉関連施設の看護の充実とネットワークづくり
- 准看護師交流及び情報提供

令和3年度主な事業計画

- 妊産婦支援
 - ・地域の助産師への支援
 - ・妊娠・分娩・出産に係る施設の看護職・管理者の情報交換会の開催
 - ・新型コロナウイルス陽性妊婦に対する家庭訪問時の対応についての研修会開催
- 子育て支援事業
 - ・両親学級名称変更「プレファミリー」講座 テキスト刷新
- 保健所支援
 - ・感染症予防対策事業 第3回 東京都会計年度任用職員育成研修(東京都受託事業)
 - ・新宿区保健所への支援(在宅陽性者の健康観察)
- 在宅ケアの推進と支援に関する事業
 - ・入退院時連携強化研修事業(東京都受託事業)
 - ・訪問看護人材確保事業(東京都受託事業)

参加者と一緒に作り上げる「プレファミリー講座」 子育て支援委員会が参加者に寄り添うこだわりとは



委員長
大久保 嘉子



委員
今井 洋子



委員
尾高 大輔

助産師職能委員会からスタートした 子育て支援委員会

佐々木：まずは、東京都看護協会における子育て支援委員会の位置づけについてお聞かせください。

黒田：東京都看護協会では、地域で働く看護職の方々の支援と都民の健康に関する普及・啓発の2つを軸に活動を展開しています。

中でも子育て支援委員会は、都民の健康に対する普及・

啓発の面で大きな役割を果たしています。特に令和2年度はコロナ禍において、多くの病院や産院で両親学級が中止された中、オンラインを通じて子育てに関するさまざまな情報を提供してきました。

佐々木：ここで改めて、子育て支援委員会の経緯について、お聞かせいただけますか。

秋野：子育て支援委員会は、私が助産師職能委員会の委員長を務めていた平成8年、当時の副会長からの「もっと地域住民に貢献する活動をしよう」という提案をきっかけに、助産師職能委員会の活動として立ち上がりました。



多くの病院や産院で両親学級が中止された中、
オンラインを通じて子育てに関するさまざまな情報を提供

—— 黒田 美喜子 常務理事

子育て支援委員会は保健師、助産師、看護師が一体となり、地域住民向けの「プレファミリー講座（旧両親学級）」や「出前授業」を開催するなど、さまざまな形で子育て支援、次世代育成に関する事業を行っています。

令和3年6月5日、委員の皆さんによる活動報告会が開催されました。各事業紹介や、コロナ禍における支援活動、これからの展望について情報を共有しました。



常務理事
黒田 美喜子



事業部
秋野 たみ子



事業部
佐々木 祥子

平成8年の立ち上げ当初、初年度わずか44組の参加でしたが、
今では年間600組を超える申し込みがあります

——— 事業部 秋野 たみ子



その年の9月から原宿（現日本看護協会）の研修室で両親学級を始めました。助産院や保健所、クリニックなどにポスターを配り、貼ってもらったのですが、当初はなかなか人が集まらず、初年度の参加はわずか44組だけでした。

その後、少しずつですが、皆さんに知っていただけるようになり、平成26年頃からは年間600組を超える申し込みがあります。当初は5名の職能委員が交代で運営していましたが、令和元年からは保健師、看護師の方も加わり、子育て支援委員会として独立しました。現在は、多くの子育て支援協力員の方々にもご協力をいただきながら活動

を進めています。

両親学級以外にも、生後3か月～1歳3か月のお子さんを対象とした子育て支援イベント「すくすくフェスタ」を年に1度開催していました。令和元年からは、対象年齢を就学前の子どもまで広げて「すくすく広場」として、広く健康や子育てに関する講演、個別相談などを行っています。また、令和3年4月から、両親学級もさまざまな家族形態に対応し、多様化する家族と子どもを支援できるよう、「プレファミリー講座」と名称を変更し、シングルマザーや婚姻関係ではないパートナーも参加できるようになりました。

カメラに向かって話すことも難しくて。本当に毎回、反省の連続でした
この1年、思い出せないくらい大変でしたが、続けてよかった

——— 大久保 嘉子 委員長



この他にも、子育て支援委員会主催で、小・中学校、高校に出向いて、いのちの大切さなどを伝える「出前授業」や、子育て支援委員、協力員のスキルアップにつながるような勉強会を行っています。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、 試行錯誤しながらもオンライン配信を導入

佐々木：これまで関わってこられた先輩方のご苦労がうかがえます。

さて、令和2年度はコロナ禍において活動をするためにさまざまな工夫や対応が求められたと思います。活動を振り返って、いかがでしたか。

今井：令和2年4月に緊急事態宣言が発出され、このまますべての活動が止まってしまうのではないかと思いましたが、両親学級は6月からオンラインでの開催に踏み切りました。誰もが不慣れでしたので、初めの頃は声が小さい、見えにくいなど厳しいご意見もたくさんいただきました。参加者にはご自宅にある人形を使っていただき沐浴指導を行うなど、手探り状態でしたが、毎回工夫を重ねてアップデートをしていき、ようやくオンラインでありながらも「参加してよかった」と言っていたできるようになり、一体感がある両親学級ができるようになりました。

大久保：今まで対面での指導しか経験がなかったので、カメラに向かって話すことも難しくて。本当に毎回、反省の連続でした。委員からは「動画配信でよいのでは」という声もあがりましたが、ライブ配信にこだわりました。その背景には、コロナ以降、産後にメンタルの不調を訴えるお母さんたちの声が以前より増えたことにあります。私を含

め、子育て支援委員や協力員の方々はそれぞれ勤務先でもとても大変な状況だったと思いますが、とにかく子育てに悩んでいるお母さんやお父さんのために何かしたい、直接コミュニケーションを取ることで、少しでも不安の解消につながれば……という思いで活動をしていました。この1年、思い出せないくらい大変で途中もうダメかも、と思うこともありましたが、事務局の皆さんにも支えられ、本当に続けてよかったと感じています。

佐々木：沐浴の様子が参加者によく見えるよう、カメラアングルを変えたり、ベビーバスの下にタオルを入れて角度をつけてベビーバスの中が見えるように工夫したり、本当に試行錯誤でした。参加者の方のために情熱を持って取り組んでくださって、ありがとうございました。

すくすく広場はいかがでしたか？

尾高：すくすく広場は令和元年に始まったばかりで、ベースがまだ固まらないままオンラインとなったので、はじめはどうなることかと不安でした。結果としては、看護師による事故予防の講演や栄養士による調理実習など幅広いテーマで展開ができたと自負しています。

一方で、いまだにオンライン上でのやりとりの難しさを感じています。というのも、ライブ配信中に参加者のビデオがオフになっていると、こちらとしては、やりにくいと感じてしまうのです。画面が真っ黒のところには話しかけるといふことに、最初はなかなか慣れることができませんでした。しかし、お子さんが泣いているからビデオやマイクをオフにしていたり、授乳などさまざまな状況の中で参加して下さったりという方もいることがわかってきました。そもそも、小さいお子さんを連れての外出は大変ですから、今後とも対面とオンラインを併用した“ハイブリッド”のすくすく広



動画配信にもメリットを感じています。

これまでに撮影した動画をアーカイブ化し、より多くの方に届けたい

——— 尾高 大輔 委員

ぜひ男性の看護職の方にも加わっていただけたらと思っています
「医療現場に、お医者さん以外にも男性がいるんだ」ということを知り
これからの世代が看護職を目指す道が広がったらうれしい

——— 今井 洋子 委員



場もニーズがあるのではないかと感じています。

佐々木：すすくフェスタ2020では動画配信も取り入れていましたね。

尾高：はい、台本から手がけたので、まるで一本の芝居を仕上げるような気持ちでした（笑）。今はライブ配信と同じように、動画配信にもメリットを感じています。せっかくですから、これまでに撮影した動画をアーカイブ化し、より多くの方に届けたい、東京都看護協会のウェブサイト上でいつでも見られるようになったらいいなと思っています。

佐々木：それはよいアイデアですね。出前授業もオンライン開催となりましたが、いかがでしたか？

今井：令和2年度は駒沢学園女子高等学校のみの開催でした。オンライン開催で生徒さんの顔を一切映さないことが条件だったので、本当に伝わっているのかな……と不安でしたが、終了後の感想や質問の内容がとてもしっかりしたもので感動しました。表情が見えなくても伝わるのだと手応えが感じられてうれしかったです。

臨機応変に対応しながら、 子育て支援の継続を

佐々木：令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が続いています。令和2年度の活動を踏まえて、次年度の取り組みについてお聞かせください。

大久保：ワクチン接種が進んでいるとはいえ、子育て世代に順番が回ってくるのはまだ先になるでしょう。まだまだ看護協会会館での開催は難しく、プレファミリー講座はオンライン開催が続くと思います。私たちもようやく慣れてきたので、次年度はさらに研究、改善を重ねながら、継続し

ていきたいです。

尾高：次年度のすすく広場は、すでに日程や内容が決定しているので、それに合わせて準備を進めていきます。1、2回目はオンライン講義を計画しているのですが、今後の感染状況によっても内容が変わってくるかと思いますが、まずは無事に開催することを目標にしたいと思っています。

今井：出前授業は、すでにご依頼をいただいています。日頃、出会う機会が少ない世代に伝えることの難しさや課題はありますが、ぜひ男性の看護職の方にも加わっていただけたらと思っています。学生の皆さんが「医療現場に、お医者さん以外にも男性がいるんだ」ということを知り、興味を持ってもらうことで、これからの世代が目指す道が広がったらうれしいですね。

大久保：学習会もオンライン開催が中心になるのではないのでしょうか。総論を学ぶだけでなく、ポイントを絞って開く講座にもニーズがありそうです。

尾高：私はお父さんの支援にも力を入れたいと思っています。いずれ対面で集まれるようになったら、プレファミリー講座やすすく広場で「パパ会」を開催したいです。

佐々木：対面だとちょっと聞いてみようかな、と声をかけやすいかもしれませんね。

ハイブリッドでの講座開催の検討や、これまでに撮った動画の公開など、前向きな課題がたくさんあります。委員会の皆さんのご負担が増すばかりですが、事務局もがんばりますので、本年度もよろしく願いいたします。

一同：実はみんな、楽しみながらそれぞれの活動に取り組んでいます。これからもがんばっていきましょう！

ハイブリッドでの講座開催の検討や、
これまでに撮った動画の公開など、前向きな課題がたくさんあります

——— 事業部 佐々木 祥子

